

## 28. 目分量の精度 (第1報)

青山学院女子短大 深谷 浩

松尾登美子

1. 家庭生活では目分量によって計量を行うことが少なくない。その妥当性を検討するには、目分量にどの程度の精度が期待できるかという面と、その計量にどの程度の精度が要求されるかという面とを併せ考察することが必要である。本報では前者に関して行った一つの実験について報告する。

2. タテ9 cm, ヨコ26cmの用紙のほぼ中央に、幅0.8 cm, 長さ6~16cmの横長の長方形を画き、左端に0, 右端に20, 40, または100の目盛数字を記し、適当な位置に1本のタテ線を引いておく。目分量でタテ線の位置を

よみとらせ、解答欄に記入させる。全長 6.0, 9.0, 12.0, 16.0cm の 4 種につき各々 3 つの位置、計 12 枚をとじて 1 組とし、全目盛 20, 40, 100 の 3 組について実験する。1 枚当りよみとり 5 秒、記入・めくり 2 秒計 7 秒を与え、ベルの合図により、被験者 111 名（学生・未訓練）につき一斉に実施した。

3. ①全長の相異による精度の差は、6～16cm の範囲では認め難い。②タテ線の位置が両端部または中央部のごく小部分にあるときには精度がやや高くなるように見受けられるが、その他の大部分においては精度の差は認め難い。③よみとりの誤差の二乗平均は、全目盛 100 に対して 2.5～4.5, 40 に対しては 0.8～1.6 の程度である。④被験者の個人差はかなり大きい。